



石の里「大谷」 地下採掘場跡公開

大	ŌYA HISTORY MUSEUM	谷
資	料	館

地下30mに広がる
神秘の巨大空間へ

写真/下野新聞社提供

▶ 営業案内

- 休館日>> 12月～3月の毎週火曜日・年末年始
(火曜日が祝祭日の場合は翌日休館)
※但し臨時休館の場合がありますので電話でご確認ください。
- 開館時間>> 4～11月 9:00～17:00(入館は16:30まで)
12～3月 9:30～16:30(入館は16:00まで)
- 観覧時間>> 約40分
- 駐車場>> 第一駐車場/バス2台、身障者・高齢者用25台
第二駐車場/普通車200台
第三駐車場/普通車30台
第四駐車場/普通車70台

入館料>>

大人	¥800	団体 (20名以上)	¥700
小人 (小・中学生)	¥400	団体 (20名以上)	¥350

※地下採掘場跡見学料も含む(消費税込)
※階段の上り下りのある見学コースになっております。
歩行の不自由な方は予めご連絡の上ご来場ください。

▶ 交通のご案内

- JR宇都宮駅から関東バスで30分
- 関東バス資料館入口から徒歩5分
- 東北自動車道 鹿沼I.Cから車で20分(13km)
- 東北自動車道 宇都宮I.Cから車で12分(8km)

▶ 地図



大谷資料館

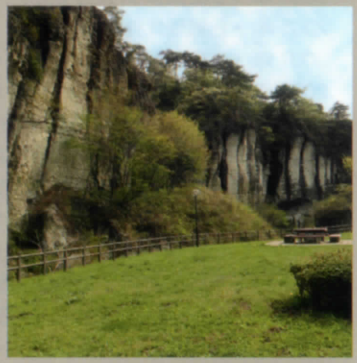
〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町909
TEL>>028-652-1232 FAX>>028-652-0010

施設のご案内

<http://www.oya909.co.jp/>

大谷ぶらり散策

大谷資料館周辺には、大谷石むき出しの岩肌や垂直に切り立った岩壁が連なる大谷景観公園があり、国の名勝にも指定されています。また、自然の岩壁に彫られた高さ2.7mの平和観音や日本最古の磨崖仏、天然の洞窟の中にすっぽりと包まれた大谷寺など、自然と文化が奏でる大谷をお楽しみいただけます。



▲大谷景観公園の奇岩群

- >>大谷景観公園まで徒歩5分
- >>多気不動尊まで車で3分
- >>大谷寺、平和観音まで徒歩15分

memo



大谷資料館へようこそ

石の里「大谷」—大谷石に生まれ発展した大谷。

現在では、大谷石採掘も手掘りから機械掘りとなり、昔と大きく変わってきています。

この変わり行く大谷石採掘の姿を、手掘り時代と機械化になった採石の道具などを展示しています。

大谷石地下採掘場跡

一般の人々の目に触れることなく「未知なる空間」と呼ばれた、地下採掘場跡。その広さは、約2万平方メートル(140m×150m)、深さは平均30mあり、最深の部分は地下60mにも及びます。これは、野球場が1つ、すっぽり入ってしまう大きさです。壁面には、手掘り時代のツルハシのあとが残りに、ずっしりと年輪の重さを感じさせます。巨大な地下神殿のような景観で、エジプトのピラミッドの内部やインディ・ジョーンズの世界観のような幻想的な空間です。第二次大戦中は、地下倉庫や軍事工場として、戦後は、政府米の貯蔵庫としてお米をお預かり致しました。なお、坑内の平均気温は8℃前後で、地下の大きな冷蔵庫といった感じです。

この「未知なる空間」を、一般の方々に公開しています。



大谷の地質

大谷石とは、栃木県宇都宮市大谷の付近一帯から採掘される。新生代第3紀中新世(今から1500万年前)に属する。流紋岩質角礫凝灰岩の総称であります。このコーナーでは、大谷石の成因、特徴、層のなりたち、分布を紹介します。

大谷石利用の歴史

8世紀の中頃、下野国分寺の土台石として、また代表的な建物では、大正11年にアメリカの建築家、フランク・ロイド・ライトの設計による東京の旧帝国ホテル(現在は明治村に保存)に大谷石は利用されました。このように、大谷石利用に関する歴史的な資料を集めてみました。



手掘り時代の採掘

採掘が本格的に始められた江戸時代の中期頃から、機械化になる昭和34年頃までの手掘り時代の道具といえば、数本のツルハシ類と、石を運ぶ時に使われた背負子ぐらいいしかありません。ここでは、採掘方法に関する資料や、採掘の道具、服装、ツルハシを作ったり修理したりする鍛冶屋などを中心に構成しました。当時の苦労の様子が良くわかります。

機械化後の採掘

ここ20数年の間に、石を切断する機械は著しい進歩を示し、現在ではいろいろな採掘や裁断が機械でできるようになり、大谷石採掘に産業革命というべき、一大変革をもたらしました。そこで、初期の機械や、近年の採掘・裁断機も展示しています。

大谷石運搬・運送の移り変わり

かつて手掘り時代には、80kg以上もある石を背負子を使い、1本1本背負って採掘場から運び出しましたが、機械化後の現在では、モーター・ウインチにより、巻き上げられています。輸送方法も、馬の背中、馬車、荷車、人車(トロッコ)から、鉄道やトラックへと変わり、今では、ほとんどトラック輸送が中心です。こうした運搬・輸送の変化を追ってみました。

大谷資料館 これまでの活用実績

- 1981年・映画「セーラー服と機関銃」撮影
- 1983年・シンセサイザー奏者 喜多郎「21世紀の祈り」コンサート
- 1984年・観世流能楽師・津村禮次郎「巖洞の能公演」('84,'85)
 - ・第1回 大谷地下美術展'84 1989年第6回まで毎年
- 1985年・演出・台本 太田吾吾転形劇場「地の駅」公演
 - ・宗次郎「オカリナを聞く夕べ」
- 1986年・山海塾 滑川五郎「アポリジニ」ダンス・パフォーマンス
- 1987年・やまと寛斎 FASHION SPECTACLE「行くぞっ!」
- 1988年・林峰男「無伴奏チェロ・コンサート」
- 1993年・拳式場「地下の教会」として利用始まる
 - ・地元日本酒醸造元の新酒及び古酒を蔵置場として保管、熟成貯蔵管理始まる
- 1994年・大谷 '94「瑠璃の天蓋」山村俊雄個展 1998年まで毎年
- 1995年・牧阿佐美/バレエ団「ロメオとジュリエット」公演
- 1996年・清水靖晃&Saxoponette「Cello Suites」CD録音
- 1999年・マジカル・ストリングス「ケルト音楽」コンサート
- 2000年・映画「ウルトラマン・ティガ」撮影
- 2001年・フェスタ in 大谷 2001 トワエモア・野外コンサート
- 2005年・日韓現代美術展「還流」
- 2007年・映画「仮面ライダー電王・ゲキレンジャー」撮影
- 2008年・日本テレビ系列「HAPPY X'mas SHOW!」世界的に有名なエンヤの映像と音声を撮影収録・放送
- 2009年・チグリハープ&鎌田泰二「月明かりも届かぬ場所」和紙灯りコンサート
 - ・渡辺純子フラメンココンサート'09「Zorongo Gitano」
- 2010年・映画「ライアーゲーム ザ・ファイナルステージ」撮影
 - ・小泉隆写真展「光と空間」
- 2013年・TBS 系列ドラマ「潜入探偵トカゲ」撮影
- 2014年・映画「るろうに剣心 京都大火編」撮影
 - ・スイスオメガ社「グレート・アドベンチャー・オブ マスター コーアクシャル」発表イベント
 - ・モエヘネシーディアジオ(株)ドンペリニオンP2-1998 発表イベント
- 2015年・映画「暗殺教室」撮影
 - ・BMW ジャパン2シリーズ試乗会
 - ・カモト加工紙(株)mtex 展
- 2017年・深海の不思議展
- 2018年・VENT

プロモーションビデオ撮影

TM NETWORK、長渕剛、LUNA SEA、X JAPAN、GLAY、工藤静香、DA-PUMP、B'z、野猿、島谷ひとみ、東京事変、SID、水樹奈々、JUJU with JAY'ED、Takamiy(高見沢俊彦)、三代目 J Soul Brothers、東方神起などのPV撮影地としても多数利用されています。